

株式会社北國銀行 様



【企業プロフィール】 (注：企業データは2011年3月末時点)

- 設立 1943年設立
- 本店所在地 石川県金沢市
- 店舗数 117店舗 (うち出張所4店)
- 資本金 26,673百万円
- 業務内容
 - ・預金業務、貸出業務
 - ・商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務 等
- 従業員数 2,003名 (嘱託・ビジネススタッフ除く)
- POWER EGG2.0 導入時期
 - 2009年12月： POWER EGG2.0 について認知
 - 2010年1月： 導入検討 (運用移行検証) 開始
 - 2010年8月： POWER EGG2.0導入推進方針を策定
 - 2011年2月： POWER EGG2.0導入決定
 - 2011年10月： 稼働開始
- 稼働ライセンス数 約3,000ライセンス
- 稼働機能 グループウェア、汎用申請ワークフロー、ファイル管理

POWER EGG2.0はふつうのグループウェアではない！ 「組織文化を変える力がある」と評価された、その理由とは？

株式会社北國銀行様は金沢市を本拠地とし、石川県内に102店舗、県外に15店舗を有する北陸地方の代表的な金融機関です。
POWER EGG2.0販売のパートナー企業である三谷産業様が同じ金沢の地元有力企業であり取引先ということもあって、「POWER EGG2.0」をご紹介する機会を頂きました。ご説明後、総合事務・システム・総合企画を担当される杖村常務取締役様から「POWER EGG2.0は、他のグループウェアとは設計思想が違ふ。経営者の目線が行き渡っている。組織の力をアップさせる設計思想と工夫が鮮明だ」との高いご評価を頂戴でき、頭取と相談された結果、次期システムとしてPOWER EGG2.0への移行を検討してみようという判断が下され、その後の導入決定へとつながりました。



(右) 常務取締役 杖村 修司 氏
(左) 総合企画部 企画課 調査役 山本 剛行 氏

導入背景 POWER EGG2.0 との出会い。

— 新ITインフラを求めて・・・。
今から約3年前、2009年頃のことである。『生産性向上のための改善手段の1つとして、ITインフラの見直しが必要だ。とくにグループウェアおよびワークフローシステムの刷新が不可欠になる』。そう判断された北國銀行様は、既存システムのメーカーサポート終了もあって、更なるバージョンアップまたは新システム導入を前提にいくつかの製品の運用検証を行っていた。しかし、同行の希望要件を満たす製品はなかなか現れなかった。

杖村常務 「当時すでにITベンダーを通じて、6社の製品の説明を聞いていました。しかし、残念ながらどれもいまいピンと来ない。そんな時に取引先である三谷産業さんから一度話を聞いて欲しいと連絡がありました。そこでシステム担当者がお会いした結果、『これかなり行けるかも！』という報告が上がって来た。そこで、情報システムを管轄する私が改めてお話を伺うことになった訳です。もともと正直なところ、最初は半信半疑であり多くを期待していませんでした。というのも、何か話を聞いているうちに、多分同行の要望を満たすような製品はそうそう無いんじゃないかなろうか、と半ばあきらめかけていたんです。ところが、ご説明を聞いて本当にビックリしましたねえ！『世の中に、グループウェアと呼ばれるものはたくさんある。しかしPOWER EGG2.0は、ふつうのグループウェアとはひと味もふた味も違ふ』と杖村常務は語る。



選定ポイント 『組織文化を変える力がある！』

- POWER EGG2.0が評価されたポイントとは。
- 起案書、議事録、報告・申請書など各種書類の回覧・決裁における《電子化》《ペーパーレス化》《内部統制強化》
 - 全行レベルの情報共有化・見える化による《気づき・協業の促進》
 - 業務の効率化と《意思決定の迅速化》などに集約される。
- ⇒ 《気づき》の機能があり、『情報が埋もれない／メールの洪水を防げる』ことにより、《協業の促進》を伴うワークスタイルの変革への期待が高まる。
⇒ 《電子化》《ペーパーレス化》は業務の効率化と同時にコストダウンにつながる。
⇒ 《意思決定の迅速化》は、生産性向上運動の要諦の1つ、D (デリバリー) のスピードアップを実現する。
杖村常務曰く、『POWER EGG2.0には組織文化を変える力がある』とのこと。

POWER EGGの個人ポータル《NaviView (ナビビュー)》は、社員一人ひとりに対して、『その人が見るべき情報を』→『適切なタイミングで』→『規程 (ルール) に沿って』プッシュ配信するポータル画面です。だから、情報洪水になって重要な情報を見逃してしまう心配はなく、適切な“気づき”を促します。

個人の窓 =個人対個人間の情報	会社の窓 =個人対組織・会社間の情報
作業台 =判断すべき情報を処理	知識の窓 =個人対社会・外部間の情報

杖村常務 「POWER EGG2.0はふつうのグループウェアとは、設計思想そのものが違ふんですね。経営者目線を意識しており、組織の力をアップさせるための設計思想と工夫が鮮明に出ている。とりわけ情報をPUSH型で届けて、気づかせてくれる点がいいですね」

当初予測よりはスムーズに。 ～データ移行の問題について

ところで、システム変更・運用移行に伴う当初のデータ移行の問題はどうかの
だろうか。

山本調査役 「確かにPOWER EGG2.0への移行を進めることにより、従来システムで蓄積した過去データが参照不可になるという問題が指摘されました。もちろんこれらのデータは、インポートコストをかければデータ移行できます。しかし、では本当にそこまでして移行が必要なのか？と確かめると、実は案外少ないことが判明しました。つまり、大した問題ではなかったということです」



本格稼働から4か月経過。 「見える化」による「ワークスタイル」の変革

「見える化」による効果は、スピード感アップとリスク管理に現れている、と杖村常務は言う。つまり承認予定で『どんな案件が回って来るのか』、また承認プロセスで『誰が何を言っているのか』が、「見える化」できている。その結果、決裁処理にスピード感が出るし、リスク管理上違った方向に進んでいたら早い段階で是正が図れるので絶大な効果がある、と評価されているようだ。

「見える化」効果

- ◆ 仕事が見えるから、業務効率向上！
- ◆ 情報が共有されるから、一体感醸成！
- ◆ 意思決定のスピードが早まり、CS向上！
- ◆ プロセスが見えるから、意識が高まりリスク予防が可能！

一 見える化により決裁スピードアップ。



杖村常務 頭取はとても満足されている様子で、“依頼事項などがきちんと進むので非常に良いね”と好評です。承認予定が見えるので、頭取の方から“先に決裁するぞ～”なんて電話がかかって来ることもあって、いきおい決裁処理のスピード感は増しますね。スケジュールについても、下からも上からも見える化しており、その点も“皆の行動が見えていいね”という評価です。もちろん、

頭取はじめ役員たちのスケジュールも全行員に見えているので、役員たちもうかうかしてられません。“なんだよこの人、全然仕事してないじゃん”ってなことになりませんからね（笑）

一 協業のあり方・仕事の進め方に大きな変化が。

従来はメモとか電子メールを回しても、なかなかアクションがなかった。しかし今は、他部署にまたがって、また課長・部長など然るべき人に一斉に情報配信されて情報共有が図られ、それぞれの然るべき人からコメントが入り、横の連携・部門間連携が強化されている。



山本調査役 「POWER EGG2.0だと、みんなで一緒に考えられ、案件協議のつど関係者を集めたり、電子メールを流したりする必要がありません。従来よりもスピード感がぐっと増しました。わざわざ集まってする会議だと、構えてしまってしゃべれなかったり、遠慮して意見が出にくいなんてことも往々ありますが、このやり方ならそんな心配もない。コメント機能があるので気軽にもの言いがやすくなり、ワイガヤ会議と違って、どこのだれが何を言ったのかも履歴が残るので、実効性が高い会議になりますね。」

今後の活用予定 <<Webデータベース>> ～全員でDBを構築・共有・利活用できるしくみに期待。

「Webデータベース」の活用については、生産性向上に寄与するものと大いに期待されている。

同行の場合、拠点数が100以上を数える。従来は、各拠点の報告類はExcelに記入させて本部へメールで飛ばさせ、本部でまとめて集計していた。しかしこれでは、

- ・各拠点の報告が出揃わないと集計が確定しないので、最終集計が出るのが遅れがちになる。
- ・本部は拠点からの報告を見られるが、拠点は他の拠点の報告が見られない。
- ・本部で最終的に集計する手間が大変である。

などの問題が生じていた。

だがPOWER EGG2.0の「Webデータベース」なら、

- ◆ Excelを使わずに、拠点でカンタンにDBを作成できる。メールでの報告が不要。
- ◆ アクセス権限を設定して拠点でも全行のDBを見られる。他の拠点のDBも見られる。
- ◆ DBを拠点で直接入力、変更できるので、本部の集計作業の手間が大幅に軽減できる。

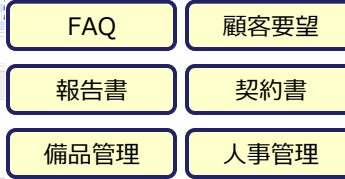
このように、各拠点ごとに作成するDBを本部で簡単に集計することができるので、従来の「拠点～本部間報告」系の様々な業務を移行して、拠点も本部もDB作成負担が軽減される。

「Webデータベース」とは、誰でも簡単にデータベースを作成・運用するためのツールです。データ項目は自分で設定できるので、自社業務に合ったデータベースの作成・編集（＝情報を管理）が可能です。またWebブラウザ上で利用できるため、他部門・別拠点間の情報共有もスムーズに行えます。

<<Webデータベース画面イメージ>>



<<Webデータベース利用例>>



杖村常務 「以前はDBの中身を全部見られるのは本部だけでしたが、今度からはみんなで見られる。この効果が大きいです。自分の店が一番早く打ち込んでいるのか、逆に出遅れているのかなどがすぐ分かります。『ちょっとまずいぞこれは。ウチが最後だぞ』って感じて、“長”の肩書きが付く人にはプレッシャーでしょうね。これからは「本部と現場の見える化」による緊張感維持や指示徹底だけでなく、「現場と現場の見える化」による“切磋琢磨”が生まれることも期待しています。Webデータベース導入による効果については相当期待が大きいですね。」

杖村常務によると、もうPOWER EGG2.0は、グループウェアといったような、情報共有など仕事場の環境を改善するバックアップツールのイメージよりも、『仕事の道具』『モバイルワークツール』『ビジネスのフロントツール』という価値を感じるという。北國銀行様では、**今後はPOWER EGG2.0をメインの“ワークウェア”/“ジョブウェア”として位置付け**、フル稼働させることで、金融業界における先進的IT活用をさらに促進して情報戦略の高度化を図って行くことが視野に入っているようである。



ディサークル株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-36-1
住友不動産千代田ファーストウイング
TEL:03-3514-6060 FAX:03-3514-6069
<http://www.d-circle.com/>

※POWER EGGはディサークル株式会社の登録商標です。
※その他記載されている会社名、製品名およびサービス名等は各社の登録商標または商標です。
※本事例に記載された情報は初掲載時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があります。あらかじめご了承ください。

取り扱いパートナー